

平成 27 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」（向原地区）

開催日時	平成 27 年 11 月 20 日（金）午後 7 時から午後 9 時 00 分	天気 晴れ
場所	向原児童館	
町民参加者	男 17 人 女 0 人（50 代 1 人、60 代以上 16 人）	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、新東名対策室長、定住対策室長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：自然災害に対する未然防止への提言（治山治水）》

- 家の周りの山を見ると剥げて木がなくなっている。また、シカやイノシシなどがままを荒らし山が崩れてきている状況で、沢の水の氾濫などで斜面が崩れるのではないかと心配がある。溜まった水をどこかに逃がすかなどの手立てが必要なのではないかと感じている。
- 尺里地区には 2 本の川が流れていて、尺里川の方は東名工事をやっている関係で整備されてきているが、滝沢川は学校からずっと入って沢を上がっていくと、個人所有の山が崩れて沢の中に流木が入っていたり、竹やぶがはびこっていたりしている。
- 用水路が各地域にあるが、尺里地区には滝沢堰というのがあり、その堰は大雨が降ると、下流部で滝沢川に落ちるようになっているが、そこで床下浸水を起こしている。滝沢堰から松澤商店のところには 3m くらいのパイプが埋まっているが、そこから尺里東の方には何も無い。家庭から流れる管があるが、そこから蚊が発生している問題もある。分流をさせれば蚊も発生しなくなるのではないかと。
- 用水の問題になるが、流れる水がどのくらいの量かということで、今の時代降水量は 100 ミリということもあり得る話で、国交省もその辺を考えて計画をしようとしている。町でもこの異常気象を踏まえた中、最大の降雨量を 60 ミリとしているところをもっと上にあげて考えてもらいたい。
- 河川に水位計を付けてもその上に土砂が溜まってしまっている。滝沢川は昔から荒川であり、危険であることから、日頃生活する上で周知徹底を図っていかないといけないと思う。
- 産業まつり開催周知が防災無線を通じてあったが、その時は女性の声でよく聞き取れたが、男性の声だと反響してしまいよく聞こえないので、防災無線を流す際は女性を起用した方がいいのではないかと。

○シカとイノシシ対策を何とか考えてもらいたい。

○中学校プールについて、現在は補修もしていないし、荒れ放題で学校の授業でもプールが使えず、ため池状態になってしまっている。何とか再開してもらえないか。

○プールは学校教育だけではなく、地域の子どもが水に親しむ場所でもある。老朽化で使えなくなってしまい、多少補強したということだが、使えないものにお金をかけるのではなく、地域の子どものためにも、規模を縮小するなどして、使えるように補修する方法を考えられないか。

○老朽化で使えなくなった施設をどうしようか考えているのであれば、その辺の情報を地域に説明してもらいたい。

《テーマ：町政全般》

○防災無線で振込み詐欺の注意喚起の放送があるが、毎回同じような注意喚起の内容なので、もっと具体的な内容で放送したほうがいいのではないか。